

親子で納得 ニュース経済学



経済ジャーナリスト・内田裕子

金利は経済の調子に合わせて上下する

金利って知っていますか？ 金利を知ると世の中のいろいろなことが分かってきます。金利の考え方はみんなの生活にとっても大切なので覚えましょう。「金利」という言葉、テレビCMや銀行のポスターなどで見聞きしていると思います。

「0.25%」とか、「0.1%」。こんな数字に見覚えがあるでしょう。金利とは「お金がお金を生む力」です。数字は増える率を表しています。金利は日本銀行が発表するものと、それぞれの金融機関が発表するものがあります。

銀行にお金を預けてお金が増えるのは金利のおかげ。でも、いま、日本は金利が世界で一番低くなっています。例えば10万円を銀行に預けて、金利が0.1%なら100円、0.01%なら10円しか増えま

せん。低金利だからちょっとしかお金を生み出さないのです。これでは困りますね。でも反対に、お金を借りたい人にとって、借りたお金といっしょに金利分も銀行に返さなければならぬので、低金利のほうがありがたいのです。金利のことを考えると、「お金を増やしたい人」と「お金を借りたい人」それぞれの立場によって価値がまったく逆になるのです。みんなのおうちでも銀行預金の金利は低いと困るけど、住宅ローンは低金利だと助かるよね。高金利なら良い、ということでもないのです。

金利ってどうやって決まるのでしょうか。金利は経済の調子に合わせて上下します。その動きに一番関係するのは会社です。景気が良いとき、会社は工場やお店を増やしたいと思います。それで銀行からお金を借りるのですが、金利が少々高くても、国の経済が活発なら企業はもうかるので、たくさん借りようとします。これを放っておくと経済が過熱します。ここで金利政策です。世界で



番成長している国、中国では、去年の秋まで政府はわざと金利を高くしてお金を借りにくくしました。過熱ぎみの経済を落ち着かせるためでした。反対に日本は低金利。経済の調子が悪いので、金利を低くして会社や個人がお金を借りやすくしています。借金をしている会社や個人にとっても低金利は助かるからです。このように金利はその国の経済活動の調整に使われているのです。

プロフィール 玉川大学芸術学部演劇専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。